

「行きたくない街」名古屋納得

表題は朝日新聞11月23日朝刊。名古屋などの都市魅力と観光をテーマにした講演で、参加者に問題提起した話題でもあり、紹介しておきたい。

名古屋市は10月、市民500人を対象にネット調査を実施(回答率85.4%)。名古屋市が「買い物や遊びで訪問したい街」で東京や大阪、福岡などに大差をつけられ最下位、という今夏の調査結果について感想を聞くと、「残念だが仕方がない」が6割、「当然と思う」が2割。「全く違うと思う」は1割に満たなかった。「仕方がない」と答えた人に複数回答で理由を聞くと、「他都市の方が楽しいから」が4割超で最多。一方、「他からの評価は名古屋の人の評価と違うから」(4割弱)、「おすすめすることをしない気質だから」(2割)と「名古屋人気質」を理由に挙げる人も目立った。また「当然」という人に理由を聞くと、6割が「象徴的な建造物やまちなみがない」、4割が「歴史が感じられない」を挙げるなど、「観光の目玉不足」を指摘する声が目立った。これに対し「全く違う」と答えた人の約7割は「おいしい食べ物がある」と、なごやめしを勧めていた。一方、河村市長は今回の調査結果について「事実だもんで隠さず言った方がいい。その結果で注目してもらえたら大変よい」と悪評を逆手にとって名古屋を売り出す構えだ。市の調べでは、前回の調査結果を7月に公表した後に新聞、雑誌、テレビなどのメディアで40回以上取り上げられ、河村市長へのインタビュー申し込みも増えたという。21日の記者会見で市長は『「名古屋に来てちょう』と心から言えるものが必要』と述べ、魅力づくりの武器として、持論の名古屋城天守閣木造化を訴えた。



10月25日に名古屋市緑生涯学習センターの「公開講座」で、名古屋の魅力を見直そうをテーマに話した。資料の一つとして、7月に公表された「都市ブランド・イメージ調査結果」を使った。都市魅力や観光について、名古屋市の衝撃的な「評価」を私なりにコメントした。とりわけ他都市の市民は自分の住んでいる都市を、「最も魅力的に感じる」と回答する人が最も多いが、名古屋市民は名古屋市よりも東京23区や京都市の方を「最も魅力的に感じる」と回答する人が多いことを話題にした。

これに対して、こんな調査は20-64歳までのネット利用者を対象にしており、高齢者の声を反映していないなど批判の声があがった。その後、上記の調査結果が報道された。名古屋にとって衝撃的なのは、「行きたくない街」の評価よりも、それを納得することかもしれない。「自己批判」をこめ継続的に考えていきたい。(2016年12月12日)